

大学と家庭をむすぶ

GROWTH

後援会通信
グロース
vol.44
2024
SPRING

特集

ここが原点、ここから未来。

— 野球界で活躍する卒業生を迎えて —



東北楽天ゴールデンイーグルス
岸孝之

東北学院大学
学長
大西晴樹

東北学院大学
硬式野球部 監督
星孝典

埼玉西武
ライオンズ
本田圭佑



東北学院大学

〔大学院〕文学研究科・経済学研究科・経営学研究科・
法学研究科・工学研究科・人間情報学研究科

〔学部〕文学部・経済学部・経営学部・法学部・工学部・
教養学部・地域総合学部・情報学部・人間科学部・
国際学部

東北学院大学後援会通信GROWTH(グロース)vol.44

発行日/2024年4月
編集/東北学院大学後援会事務局(総務部総務課内)
発行/東北学院大学後援会
〒980-8511 仙台市青葉区土樋1丁目3-1 TEL 022-264-6411 FAX 022-264-3030
E-mail kouenkai@mail.tohoku-gakuin.ac.jp URL https://www.tohoku-gakuin.ac.jp/kouenkai/
制作/Hi creative inc.

【本紙における個人情報及び掲載記事の取り扱いについて】
本紙に掲載されている個人情報は、本人の了解のもとで本紙に限り公開しているものです。よって、第三者がそれらの個人情報を別の目的で利用することや、本紙の無断転載はお断りしております。

土樋キャンパス

〒980-8511 仙台市青葉区土樋1丁目3-1
TEL 022-264-6421(総務課)
FAX 022-264-3030(☎)

五橋キャンパス

〒984-8588 仙台市若林区清水小路3-1
TEL 022-354-8100(総務課)
FAX 022-354-8105(☎)

泉キャンパス

〒981-3193 仙台市泉区天神沢2丁目1-1

GROWTH(グロース)の意味は、「成長する」です。聖書には、「どんな種より小さいのに、成長するとどの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て枝に巣を作るほどの木になる」(マタイによる福音書第13章32節)、また、「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です」(コリントの信徒への手紙-第3章6節)と記されています。東北学院大学の学生の皆さんが各分野において、知識や技術、教養を十分に修め、神と共に祝されつつ大きく成長するという期待が本紙に込められています。

■本紙に関するご意見・ご要望をお待ちしております。



東北学院大学



仲間力づけられ、先輩の背中を追いかけて。 東北学院での4年間は、未来につながっていた。

現在、東北学院大学には体育会に所属する団体が44団体あります。

そこで練習を積み、能力を伸ばし、あるいは開花させ、プロフェッショナルスポーツの世界に挑戦する学生がいます。

今回はプロ野球界に飛び込んだ卒業生3氏を迎えての座談会が実現しました。

お話は、学生時代の思い出、プロの厳しさに続き、「学院愛」についても。

どうぞ一読ください。

キャンパスの主演は学生。

真新しい学舎にこれからどんな年輪が刻まれていくのか。

大西: 本日はお忙しい中、東北学院大学五橋キャンパスにおいでいただき、ありがとうございます。この新キャンパスは今年4月から始動しました。みなさん、中に入ってみての印象はいかがですか。

星: 私は仙台出身ですから、かつて市立病院があった風景を覚えています。そこに母校のキャンパスが建ったというのは何か不思議な感じがしますね。まだ新しく

きれいですが、キャンパスを創り上げていくのは、主役である学生だと思います。どのように使われ、活かされ、年輪を刻んでいくのか、とても楽しみです。

岸: 車で東二番丁通を通るたびに、建物が完成していく様子を見ていました。やはり卒業生としては気になりましたね。私たちの頃は、1、2年生は泉キャンパスで学んだので、土樋キャンパスは上級生がいる

ところというイメージでした。当時は泉に住んでいたの、いざ自分が上級生になると土樋キャンパスと練習場の行き来が大変だったという記憶があります。*

本田: 私は教養学部の出身で、大学4年間、泉キャンパスに通学していました。ですから市中心部のキャンパスに通ったことはありません。五橋キャンパスはきれいですし、賑やかな街中にも近くて、卒業生

ながらテンションが上がりました。学生さんたちも楽しいキャンパスライフが送れるのではないのでしょうか。

大西: そうですね。五橋キャンパスは、多賀城市、泉区にあったキャンパスを仙台市中心部に集約しました。交通の利便性は大きく向上して、JR「仙台駅」から徒歩で15分、地下鉄南北線「五橋駅(東北学院大学前)」から直結です。岸選手が言ったように以前は学年や学部ごとに学び舎が異なってい

ましたが、1年生から4年生までがワンキャンパスに、そしてさまざまな学部・学科が集まっていますから、学生たちが刺激し合えるという利点がありますね。1年生が3年後の姿を間近に見られるというのは、自分の将来像を想像するという点で大きな意味があると考えます。ただ、ご指摘の通り、グラウンドが離れているので、運動部の移動が課題になっています。

星: 移動の負担が少なからずありますから、

限られた時間内で、いかに効率的にトレーニング・練習するか…知恵を絞り、工夫をしています。

大西: 選手一人ひとりの都合に配慮して、全体練習と個人練習の時間を分けるなどの工夫が必要かもしれませんね。

練習環境としては、首都圏の大学と比べると恵まれている点も多々ありますから、「すでにある」設備や資源を最大限活用していきましょう。

迷い、悩み、逡巡した日々——野球をやめよう。 そのたびに仲間たちが引き止め、勇気づけてくれた。

大西: みなさんは長らく一つのスポーツに取り組んでこられたわけですが、「野球」が育んでくれたものとは何でしょうか。もちろん現在、糧を得る「仕事」であるわけですが、それだけではなく人格や性格の形成に影響を与えたり、人生観を形づくったりという経験や出来事も多くある

と思います。

星: 私は小学1年生から野球を始めました。野球は難しく、おもしろい。決して練習した通りにはいかない。だからこそ、試行錯誤して計画を立ててコツコツと練習をしていく。そのように地道に努力していく姿勢は、野球だけではなくさまざまな場面

で役立っていると思います。そしてこれはとても大事なことなのですが、野球を通じて出会った人とのつながりですね。その方たちのおかげで、今の私があります。

昨春、選手、コーチとして18年間続けたプロ野球生活に別れを告げて、母校の硬式野球部監督として舞い戻ってきました。学生には、「野球は青春を賭けるに値する素晴らしいものだけれど、野球だけではなく学びも重要」と伝えています。

(※編集部注:硬式野球部のグラウンドは泉キャンパスに整備されている)

長い目で見た時、大学で勉強したことが役立つ日が必ずやってきます。加えて、挨拶や身だしなみ、コミュニケーションなど、「社会に出て通用する学生の養成」が、硬式野球部の大本(おおもと)のテーマです。

大西: 本学はキリスト教による人格教育に取り組んでいますが、それは机上の学びだけではなく、様々な体験、課外授業で養われていくものと考えています。星監督の言われたように自分の思い通りにならないならば、どうすればいいのか。あれこれと試行錯誤したり、仲間に支えてもらったり、先輩に相談したり、という経験の中で、発見があり、学びがあり、人間的成長が果たされていくのだと思います。

岸: 星さんから話があった通り、仲間の力というのは大きいですね。私も数えきれないほど何度も「野球をやめよう」と思い悩んだことがありましたが、決まってチーム

メイトが思いとどまらせてくれました。仲間がいるからこそ、厳しくも険しい道を歩み続けてこられた。野球を通じて得た仲間は今でも心強い存在です。

私が硬式野球部にいた当時は、連帯責任という“スポ根(スポーツ+根性)”的な文化がありました。もちろん現在はそのような指導はできないと思いますが、一人の部員の遅刻や忘れ物などのペナルティを、全員で受けるのです。…私は一人で抵抗していた覚えがありますが(笑)、その時もチームメイトが「いいから、一緒にやろうよ」と声を掛けてくれました。

そもそも私はスポーツ推薦枠で入学しました。それが結果的に社会への出口(プロ野球)につながったのですから、ほんとうにありがたく、感謝しています。

星: 連帯責任によって、一人の行動が全体に迷惑をかけるということが実感できまし

たね。本田の頃は、連帯責任はあったの？
本田: まだありましたね(笑)。私は2回経験があります。

学生時代の学びでいえば、教養学部人間科学科の体育実験実習のゼミを履修していて、身体能力をいかに最大化させるかということを探りました。この学びは自分のパフォーマンス向上にも直結しました。

当時の硬式野球部では自主性が重んじられていたように思います。練習時間が限られている中で、どうしたら勝てるのか、考えながら練習に取り組みました。ところが自分では一生懸命にやっていたつもりでしたが、いざプロの世界に入ってみると、それ以上に練習のレベルが高かったことが驚きでした。それでも大学4年間でいろいろと悩み、改善・進歩を目指して努力した経験は、今の自分の中に生きている、つながっていると感じています。



学生時代からお世話になった仙台・東北。マウンド上でがんばっている姿を見てもらいたい。

大西: プロの厳しい世界で闘い抜くため、フィジカル・メンタル両面でいろいろなケアをしているのではないのでしょうか。アスリートといえば、たびたび「ルーティン」が話題になりますが。

岸: 実は、食事やトレーニングなど、特別な事はしていません。大谷翔平選手(MLB、ロサンゼルス・ドジャース)みたいな綿密な食生活や身体づくりはしていません。ただ私は投手なので、走ることと投げることはしっかりと続けています。後悔をしないように、という思いはいつも頭の片隅にあります。ルーティンですか…そういえば、試合に向かう前に家族に電話することが習慣になっていますね。

(埼玉)西武ライオンズ時代は、距離的なこともあり、球場で応援してもらうのは難しかったのですが、楽天に移籍し、家族や友人にも気軽に足を運んでもらえるようになりました。学生時代からお世話になった仙台・東北。その恩返しとして、試合で勝利する

ことが一番なのでしょうけれど、少なくともマウンド上でがんばっている姿を見てもらえればと思っています。

星: 岸はなにをやってもうまくこなす。「特別なことはしていない」と言いながら、40歳までマウンドに立っている、うらやましいです。いい意味でマイペース、周囲に左右されないという性格ですね。ブルペンでピッチングを受けていた時は、ミットを構える位置やら、途中で球数をカウントするなどか、叱られたものです(笑)。

ルーティンといえば、岸はインニング間の投球練習の時、投げる球種の順番が毎回同じなんです。それが偶然にも本田もだいたい同じ(球種順番)なんですね。あまりにも不思議なので前に一度「真似しているのか」と本田に訊いたことがあるのですが、本人はまったく意識していないという。無意識のうちに最適化されているということなのでしょう。

本田: はい、真似はしていません。私の場合

ルーティンと言えば身体づくりです。食事は栄養面を考慮というよりは、痩せないためにしっかり量を食べるということを意識しています。あとは睡眠と休息のバランスですね。

トレーニングに関しては、いろいろな情報、新しいメソッドなどをよく耳にしますし、私もアンテナを張っていますが、まずは身近にいる他の選手が取り入れていることを参考にしています。もちろん、やるかどうかは、自分自身で判断します。

大西: これは個人的な興味からの質問なのですが、登板する前に、今日は調子がいいとか、勝てるな、という予感はあるものなですか。

本田: 試合にはコンディションを整えて臨みますが、正直に言うと投げてみなければわからない。始まらないとわかりません。

岸: こればかりはわかりませんね。朝、本調子じゃないなというときでも、練習をして体を温めて、試合に臨むとよい感じで投げられることもあるし、絶対調だなど思うときでも、ダメな時もあります。私たちは野球をすることが仕事です。緊張感と責任感で、今でも試合前はとても緊張します。

遠くの存在よりも同じ硬式野球部の先輩をお手本に。追いつけ追い越せの気持ちで。

大西: 野球をプレーする側から「ここを観てほしい」「ここが観戦のポイント」というところを教えてください。

星: キャッチャーをみてほしいですね。私のポジションですが、キャッチャーはチームの要であるにもかかわらず、主役や花形になることが少ないのです。かつては本塁クロスプレーが大きな見せ場でしたが、2016年から規則が厳格化され、接触を伴うような激しいプレーはなくなりました。注目されるのは、盗塁を刺す場面ぐらいでしょうか。強打者を押さえたら「投手のナイスピッチング」、だけど打たれたら「キャッチャーのリードが悪い」で褒められることがない(笑)。だからこそ奥深く面白いという見方もできますが。

試合はテレビではなく、ぜひ球場で観戦してほしいですね。ベンチ内でピッチャーとキャッチャーが話し込んでいたり、何気

なく肩を叩いてねぎらっていたり、画面に映らないところにもドラマがありますよ。ピンチを抑えてピッチャーが喜んでいる時、キャッチャーも小さくガッツポーズしているはず。そこを観てほしいですね。

岸: ぜひ生で観てほしいです。球場を揺らす歓声やどよめきの臨場感は決してテレビでは伝わりません。特に満員の時の大歓声は、ベンチで聞いていて鳥肌が立つほどすごいです。私たちプロの選手はしばしば「ファンの声が力になりました」と言いますが、それは本当のことなんですね。

それと選手個人のパフォーマンスにも注目してほしいですね。俊足で知られるプレーヤーの走塁は、間近で観るとその速さに驚かされると思います。

本田: 学生の頃、楽天の試合を観戦に行ったときは、球速や球種・配球をチェックしながら観ていました。

大西: 本田選手は、ピッチャーとしての目線から試合を観ているわけですね。メジャーリーガーや日本のプロ野球選手の中に目標とする選手はいましたか。

本田: 遠い存在よりも同じ硬式野球部の先輩をお手本とすることが多かったですね。追いつけ追い越せ、という感じで。あとは岸先輩を尊敬していて、ずっと見てきました。

星: 岸、本田ともに、社会に出てからも東北学院とのつながりを大切にしています。岸は富士大学(監督の安田慎太郎氏と岸投手は大学硬式野球部時代の同級生)との練習試合に顔を出してくれたんですね。突然のスター選手の登場に、周囲はざわついていました。

本田は、2021年に母校の東北学院高校が甲子園大会に出場した際には、Tシャツを寄付していました。東北学院高校出身の部員は今でも愛用していますよ。



まずはリーグ優勝が目標。強いチームづくりに向けた取り組みを、選手ファーストの目線で。

大西:2023年2月、星監督が就任されてから、硬式野球部の気風は変わりましたね。グラウンドに近い東北学院榴ヶ岡高校の校長からは「硬式野球部は早朝練習をがんばっている」と報告を受けていますし、泉キャンパス近くのコンビニエンスストアの店長からは「最近、しっかりとあいさつをするようになった」とお褒めの言葉をいただいています。さまざまなネットワークを駆使して、情報を集めていますよ。

野球は、1872(明治5)年、アメリカ人教師が第一学区第一番中学(開成高校、現・東京大学)の生徒に教えたのが始まりとされています。東北学院創設者である押川方義の子息、押川清(1881-1944年)は、日本初のプロ野球チームを立ち上げたことでも知られています。本学の硬式野球部の創設は、1893(明治26)年。戦後、開催されるようになった全日本大学野球選手権大会(1952年から開催)へは通算19回出場する強豪で、長らく仙台六大学野球リーグの優勝常連校だったのですが、1970年代から東北福祉大学が頭角を現しました。福祉大の連覇を止めたのは、岸選手でしたね(2006(平成18)年)。

現在は下剋上の時代。名門と言われる大学と地方の新興チームとの戦いになって

いるとみています。最新の統計学やデータ分析を駆使するチームも増えましたね。星監督にはがんばってもらい、神宮(明治神宮野球大会)に連れて行ってほしいと思います。**星:**そうですね。まずはリーグ優勝を目標にしています。そのためにも様々な個性と能力を持った選手を集め、層を厚くしていく必要があります。

私が最近、心配していることのひとつは野球人口の減少があります。私が子どもの頃、広場に数人集まれば野球をしたものですが、最近の子供たちは公園に集まってゲームをしています。気軽に野球ができる場所が減ってきたということもありますし、サッカーやバスケットボールといった“ライバル”もいます。本田が先輩である岸の背中をみてきたと言っていた通り、若い選手の目標となるような、憧れの存在もまた必要ですね。硬式野球部員たちには先輩の励みになるように、と言っています。

岸:楽天イーグルスでも試合に子どもたちを招待したり、野球教室を開いたりという活動を継続しています。野球場の雰囲気を

感じて、興味を持ってもらえたらうれしいですね。

硬式野球部の技術向上に関していえば、練習の質や量がクローズアップされがちですが、環境の整備も重要だと思います。グラウンドの人工芝や屋内練習場の照明設備もないと聞きますから、選手ファーストの目線をお願いしたいと思います。

大西:その点は今後の大きな課題です。昨年8月、株式会社ベガルタ仙台と包括連携協定を結び、泉キャンパスのサッカーグラウンドやクラブハウスを、共用の施設として整備することになりました。野球の練習環境についても広く支援をしていきたいと考えています。

さて、本日は、座談の場にお集まりいただき、ほんとうに感謝しております。硬式野球部での経験や鍛錬を通じて、人間的な成長を果たされたお三方とお話できたことはとても有意義でした。本学硬式野球部が仙台六大学野球リーグで優勝して、仙台市内をパレードするのが私の夢です。その時はぜひ岸選手、本田選手にも、伝統に連なる卒業生としてオープントップバスに乗ってほしいと思います。本日はありがとうございました。

PRESENT

岸選手 & 本田選手サイン色紙 6名さま

詳しくはP18へ

※岸選手3枚、本田選手3枚ずつ。

東北楽天ゴールデンイーグルス

岸 孝之 選手

2006年度<2007年3月>

経済学部経済学科 卒

名取北高校→東北学院大学→埼玉西武ライオンズ(希望入団枠)→東北楽天ゴールデンイーグルス(現在)

ポジション:投手

在学生へのエール

人生は一度きり。後悔しないように、しかし失敗を恐れずにいろいろなことに挑戦してほしいと思います。私の座右の銘は「迷ったら前へ」。これは2016年、楽天に移籍する際に、星野仙一さん(2011-2014年 楽天イーグルス監督、その後、楽天イーグルスシニアアドバイザー、(株)楽天

野球団取締役副会長)からかけられた言葉です。今でも迷ったらとにかく前に進んでみることを心掛けています。そして、練習やトレーニングなど自分がやってきたことを信じていれば「結果はついてくる」。ピンチの時に心を奮い立たせてくれる言葉です。

©Rakuten Eagles



埼玉西武ライオンズ

本田 圭佑 選手

2015年度<2016年3月>

教養学部人間科学科 卒

東北学院高校→東北学院大学→埼玉西武ライオンズ(ドラフト6位)(現在)

ポジション:投手

在学生へのエール

学生時代は、野球に打ち込んだ4年間でしたが、それはプロへの道を開いてくれました。多くの人にとって、大学時代は社会に出る助走期間だと思います。学業、そして課外活動・アルバイトの両立は難しいかもしれませんが、将来を見据えた準備にも少しずつ取り組む

ことをおすすめします。

私は卒業して8年経ちますが、思えば、学生時代は「時間」に恵まれていたと思います。一人でも、仲間と一緒にでも、その時にしかできないことに挑戦してほしいと思います。悔いのないように一。

©SEIBU Lions



硬式野球部監督

星 孝典 氏

2004年度<2005年3月>

法学部法律学科 卒

仙台育英学園高校→東北学院大学→読売ジャイアンツ(ドラフト6位)→埼玉西武ライオンズ→現役引退(2016年)→埼玉西武ライオンズ(育成コーチ)→東北楽天ゴールデンイーグルス(バッテリーコーチ)→現職(2023年2月~)

現役時代ポジション:捕手

在学生へのエール

社会に出るまでの4年間は、夢や目標に向かって打ち込める時間です。やりたいことに思う存分打ち込んでほしいと思います。さまざまな人と出会い、新しい考えや意見に触れ、それについて思いを巡らせることは、自分という可能性を広げてくれます。

若いころは、今、この瞬間が永遠に続くかのように感じてしまうものですが、過去の時間は戻ってきません。何といても「今日が人生で一番若い日」なのです。チャレンジしてみることが何よりも大事。青春を謳歌してほしいと願っています。



2024年度

後援会総会・ 大学開放プログラム

開催のお知らせ

日時

2024年5月25日(土) 9:30-16:30

会場

五橋キャンパス及び土樋キャンパス

最新情報・参加申込はこちら



毎年、5～6月に会員の皆さまへ本学の施設を開放し、キャンパス見学ツアーやパイプオルガンコンサートを開催するほか、著名人によるご講演をいただいております。ご家族で楽しめる内容になっていますので、ぜひご参加ください。

2024年度

地区後援会

開催のお知らせ

実施期間

2024年7月～9月

実施会場

全26地区

最新情報・参加申込はこちら

お弁当
無料配付!



毎年7～9月にかけて、北は北海道から南は東京都までの各都市に本学の教職員が出向き、大学の近況報告や個別面談、自治体による地元就職セミナーなどを実施しています。

お住まいが遠方のため、仙台市で開催する後援会総会に出席することができない会員の皆さまとの交流を深められる大事なイベントです。ぜひご参加ください。夏休み期間中、帰省されている学生と一緒にご家族でご参加いただくことも大歓迎です。

保護者と学生のための教養セミナー

14:00-15:15 押川記念ホール

講師 池田 清彦氏 生物学者 早稲田大学 名誉教授

がんばらない生き方

1971年東京教育大学理学部を卒業後、東京都立大学大学院理学研究科を経て、1979年より山梨大学教育学部講師。1990年から同学部教授。2004年からは早稲田大学国際教養学部教授、2018年、早稲田大学名誉教授。著書に『構造主義生物学とは何か』『構造主義と進化論』ほか多数。フジテレビ系「ホンマでっか!?TV」にレギュラー出演し、コメンテーターとして活躍中。

ホンマでっか!?TV ご出演中



後援会総会

10:55-12:00 押川記念ホール



- 1.開会宣言
- 2.聖書朗読並びに祈祷
- 3.挨拶
- 4.議事
 - (1)2023年度後援会庶務報告
 - (2)2023年度後援会収支決算報告並びに会計監査報告
 - (3)2024年度後援会事業計画(案)
 - (4)2024年度後援会収支予算(案)
- 5.閉会宣言

■ 特別礼拝 & パイプオルガンコンサート
9:45-10:45

■ キャンパス見学ツアー
①12:15-12:40 ②12:50-13:15

■ 保護者のための留学説明会
12:15-13:15

■ 個別面談 / 学科別懇談会
12:00-14:30 13:20-13:55

■ 学生の就職を考えるセミナー
15:30-16:30

■ 施設開放
9:30-14:30



自治体等による 地元就職セミナー

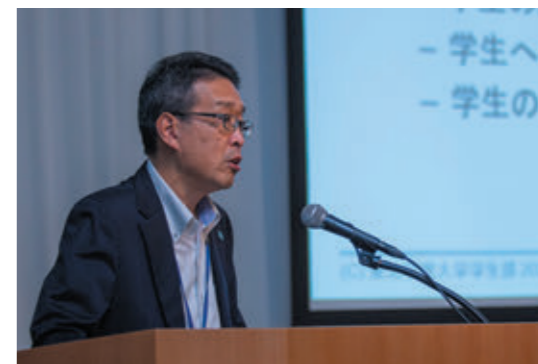
各地区の自治体等の就職支援担当者にお越しいただき、地元の雇用状況や就職に対する取り組みを紹介いただきます。



3部からの説明

- ・学務部…「進級・卒業」「単位取得」「科目登録」など
- ・学生部…「奨学金」「課外活動」「アルバイト」など
- ・就職キャリア支援部…「就職活動」「キャリア形成」など

学業や学生生活、就職活動等に対して不安を抱くのは、学生だけではなく、保護者の方も同様かと思えます。地区後援会では、各部の職員が活動内容や大学生を取り巻く近況についてお伝えいたします。



大学紹介(動画上映)

社会で活躍する、本学の若手卒業生へのインタビュー動画を上映いたします。卒業生の皆さんにキャンパスライフや就職活動を振り返るとともに、現在の仕事に対する思いなどを語っていただきました。



個別面談(希望者のみ)

ご希望の方を対象に、個別面談を実施いたします。希望される場合は、お申込みフォームに相談内容等をご入力ください。一人ひとりのお悩みや疑問に寄り添った面談を実施いたします。





4年間の学びと実践を活かし、 企業内起業にも挑戦したい。

name: 菅原 琢真 さん

class: 経営学部 経営学科卒業
(2024年3月卒業)
就職先: 株式会社丸山運送

起業への関心から、経営学部経営学科に進んだ菅原琢真さん。彼が就職先を選んだのが、物流分野を中心に国内外で事業を展開する株式会社丸山運送だ。この会社を選んだ理由を菅原さんは次のように話す。「丸山運送で特に魅力的だったのが『the 080ビジョン』です。これは、80の事業、80人の経営者を社内から創出し、物流を超えた挑戦を続けていこうというもの。起業に挑戦したいという思いもあり、企業内起業には大きな可能性を感じました」。

同社では2019年、企業内起業という形でシェアオフィス事業に参入。菅原さんもまた、大学2年の春から学生のインターンとして、この事業に関わり続けてきた。「シェアオフィスの受付や営業といった運営に携わる中で、多種多様な企業の方、社会人の方と出会うことができました。また、企業と学生をつなぐイベントの企画・運営などの機会もいただき、貴重な経験を積む

ことができました。大学の講義を通してロジックの部分を学び、インターン活動を通して知識をより確かなものとする。机上の学びと実践での学びを両輪とすることで、4年間の学びがとても充実したものになったと感じています」。

菅原さんの本学入学は2020年、その後の4年間はコロナ禍の時期とも重なる。そうした中、「このまま何も動かず4年間を過ごしてしまったらもったいない」と考えた菅原さんは、オンデマンド授業を最大限に活用した学び、シェアオフィスでのインターン、全国大会での1勝を目標に掲げ、早朝6時からの朝練習や日中練習に仲間とともに打ち込んだ軟式野球部の活動を柱に、それぞれのバランスを大切にしながら自ら積極的に動くことを選んだ。「4年間で身に付けたのは、行動力」と言い切る菅原さん。その行動力の先には、どんな未来が待ち受けているのだろうか。



海洋土木の世界で、 いのちを守る仕事を。

name: 小角 神月 さん

class: 工学部 環境建設工学科卒業
(2024年3月卒業)
就職先: 東洋建設株式会社

総合建設業を意味するゼネコン (General Contractor ゼネラルコントラクターの略)。その中でも、港湾・護岸工事、海底トンネル工事といった港湾施設建設や海洋土木工事を得意とする建設業者を、マリコン (Marine Contractor マリンコントラクターの略、和製英語) と呼ぶ。この春、工学部環境建設工学科を卒業した小角神月さんが就職先として選んだのが、大手マリコンの一つである東洋建設株式会社。「海の東洋」とも言われるほど、海洋土木の分野で豊富な実績とノウハウを有する企業だ。

マリコンと小角さんの出会いは、大学2年生の時までさかのぼる。「学科で土木分野の仕事や魅力を知る機会として、ゼネコンなどの企業の方をお招きし、お話を伺う機会がありました。ある企業の人事担当の方に、自分のこれまでの学びや興味関心についてお話ししたところ、『小角さん

にはマリコンが向いているかも』というアドバイスをいただきました。それをきっかけに、マリコンについていろいろ調べ始め、3年生の夏には、東洋建設の大船渡作業所で1週間のインターンシップを経験。作業所の家族的な温かさに魅力を感じた私は、東洋建設一択で就職活動に臨みました」。

小角さんは、高校時代、自然災害や防災について専門的に学ぶ災害科学科に在籍。土木工学についてもっと専門的に勉強してみたいと考え、工学部環境建設工学科へ進学した。研究室選択にあたっては、コンクリート工学の研究室を選び、非破壊検査によるコンクリート表層評価について研究した。小角さんの根底にずっと変わらずにあるのは「いのちを守る仕事に携わりたい」という思い。その思いを胸に今、小角さんは海洋土木の世界へと新たな一歩を踏み出そうとしている。



民俗研究を通して、 地域に根差した人材を 一人でも。

金子 祥之ゼミ

文学部 歴史学科



金子 祥之 准教授

博士(人間科学)(早稲田大学)。東京大学東洋文化研究所特任研究員、日本学術振興会特別研究員PD、跡見学園女子大学マネジメント学部助教を経て、2020年より東北学院大学文学部講師、2022年より同准教授。

■ 研究キーワード

民俗学／村落社会学／環境社会学



身近な文化を掘り起こす。

東北学院大学着任前は、首都圏の大学に籍を置き、東日本大震災の被災地である福島県を主なフィールドとして、民俗(地域文化)の研究をしてきました。首都圏の大学の場合、福島県をフィールドに地域の文化を学んだとしても、卒業後の就職先として学生たちが選ぶのは首都圏がほとんどです。学生時代にたとえ一瞬でも被災地にかかわることは、学生たちの人生に何らかのプラスをもたらす貴重な経験であることは確かです。ただ私はそれに満足することができませんでした。

東北をフィールドに民俗学の研究に取り組み、卒業後も東北に根差した活動をする、そんな人材を一人でも多く育ててみたい——その思いを胸に、2020年、本学へやってきました。私のゼミではこれまでに45名の卒業生を送り出していますが、そのうち9割が東北各地で活躍してくれており、この点でも、とてもやりがいを感じているところです。

地域の文化というと身近な存在であり、簡単に研究できるように思われるかもしれませんが、けれども、身近な存在であるからこそ、気にも留められず、記録も残されていません。一から資料を

探索し、じっくりと腰を据えて研究していかなくてはなりません。

学生たちとともに、つぎのプロジェクトに取り組んでいます。いずれも2～4年次の3年間をかけて、聞き取り調査の実施、収集したデータ等の整理ならびに記録化を行い、最終的には報告書の刊行を目標とします。2023年度は、2年生が福島県檜枝岐村での博物館再生、3年生は福島県浪江町南津島の伝統芸能「田植踊」の継承支援、4年生が福島県川内村における小規模寺社の記録にそれぞれ取り組んでくれました。仲間たちとともにさまざまなモノやコトにふれ、地域の文化を掘り起こしています。

伝統芸能の継承を支援しバトンをつなぐ。

現3年生が中心になって取り組んでいる南津島の伝統芸能「田植踊」の継承支援活動は、原発災害の発生によって避難を余儀なくされるまで、この地区に暮らしていた一人のゼミ生の「どうすれば民俗芸能を継承していけるだろう」という思いからスタートしました。この学生は、民俗学を専門的に学ぶことのできる東北で

は数少ない大学の一つである本学に入学し、「南津島の郷土芸能を何とかしたい」と私のゼミに参加。周囲の学生も巻き込みながら、南津島郷土芸術保存会のみなさんのもとへ足を運び、田植踊を学んできました。

かつて福島県浜通り地方には70もの田植踊の団体がありました。しかし現在までに再生できたのはわずか1割。避難が解除され、住民が帰還し始めた地域も増えてきましたが、文化を含めた地域の豊かさの再生という意味では、まだまだというのが現状です。こうした

現実を前に、地域文化を研究対象としてまなぐだけでよいのでしょうか。それに生きがいを感じる人たちを支えてゆき、地域文化をつなげてゆくこともまた、取り組むべき研究実践だと考えています。

学生にとっては、フィールド調査で出会う地域の人びともまた先生なのです。大学での学び、地域での学びを通して大きく成長する学生たち。その姿を私自身の励みとして、地域に根差した人材を一人でも多く育てていきたいと思っています。

ゼミ生に感想を聞きました

歴史学科4年 國崎 大輝さん

仙台市出身の私にとって、伝統芸能はそれほど身近なものではありませんでした。地元の保存会のみなさんと交流を重ねる中で、その熱意に動かされ、自ら率先して動くようになりました。伝統芸能の継承を支えるこの活動は、私たちの学年だけで終わるものではありません。やがて津島地区が復興した際にバトンタッチできるよう、保存会のみなさまとともにつないでいきたいと考えています。



CAMPUS GOURMET FOOD

キャンパスグルメ

五橋キャンパスに 生まれた新スポット！

五橋キャンパスの押川記念館1階にある学生食堂は、「地域に開かれた大学」というコンセプト通り、前面はガラス張り、白を基調とした内装、温かなダウンライトを多く採用した落ち着いた開放的な空間となっています。飲食フロアの席数は330席、ランチタイム以外も、学生同士のコミュニケーションの場として多くの学生に利用されています。

学生食堂では、学生のカラダとお財布にやさしい食堂をめざし、麺類やカレーのほか、サラダなどの小鉢が選べる3種の「日替わりランチセット」など豊富なメニューを低価格で提供。白米と雑穀米からライスを選べるようにするという工夫も凝らされています。

地域のみなさまにも開かれた食堂となっていますので、お近くにお越しの際はぜひご利用いただければと思います。



日替わりランチセット ¥580

西野さんがこの日選んだメニューは、日替わりランチセットの「牛肉と蓮根の豆板醤炒め」。「ピリ辛の豆板醤炒めにライス、味噌汁、選べる小鉢が付いた充実のランチメニューでした。選べる小鉢にはサラダをチョイス、麦入りのご飯もヘルシーで美味しかったです」。

豊富なメニュー ランチセットのほか定番メニューも充実

麺類には日替わりのミニ丼をセットすることも可能。3種の日替わりランチセットはもちろん、顔ほどの大きさのカツが乗ったMEGA盛りチキンカツカレーも人気です。



五橋キャンパス 学生食堂 (押川記念館1階)

営業時間: 11:00~15:00(土・日・祝日閉店)
※原則、通常授業日のみ営業
※学事暦により、営業時間が変更となる場合があります。

リポーター

name:
西野 蒼さん
class:
文学部
総合人文学科
grade: 4

五橋キャンパスで講義がある時などにこの食堂を利用しています。ランチタイム以外も開放されているので、ここで友人と課題に取り組んだりしています。



キャンパスニュース

ベガルタ仙台の新たな練習拠点 泉キャンパスに整備中です

昨年8月、学校法人東北学院と株式会社ベガルタ仙台は教育・研究や双方が行う地域貢献活動について連携・協力することを目指して、包括連携協定を締結いたしました。

協定事業の一つとして、泉キャンパスのグラウンド及び関連施設の整備も進められており、同キャンパスのラグビー場は天然芝グラウンドに、サッカー場は人工芝多目的グラウンドになる予定です。整備後のグラウンドはJリーグベガルタ仙台のトップチームが練習に使用する他、本学の授業及び課外活動でも使用いたします。

また、大学生協や学生食堂として利用していたコミュニティセンターは主に選手が利用するトレーニングルーム、ロッカールームに改修するほか、その一部にはファンや地域住民との交流スペースも設置される予定です。

公開練習などの際には泉キャンパスに足を運んでいただき、選手の熱気を感じてください。



※画像は整備イメージです。実際とは異なる場合があります。©VEGALTA SENDAI

東北学院のブランドショップ 「友愛ショップ」是非ご利用ください

2023年10月16日、五橋キャンパス 押川記念館1階に学校法人東北学院のオリジナルグッズを販売する『友愛ショップ』がオープンいたしました。オープン以来、卒業生を中心に大好評いただいており、オリジナルのポストカードやブレンドコーヒー(ドリップパック)、真空ステンレスボトルなどの新ブランドマークの商品が人気です。ネクタイとスカーフは数量限定で販売しております。

店頭のほか、オンラインショップからもお求めいただけますので、是非ご利用ください。

店舗営業時間: 平日11時~17時(13時~14時を除く)
オンラインショップ: <https://tg-shop1886.net/>



東北学院大学後援会 資格取得報奨制度

資格取得の奨励と学生の資質向上を目的として、後援会費を納入いただいている現役の大学院生、学部生を対象に、在学中の国家資格取得者やTOEIC、TOEFL iBTなどの基準点取得者へ、資格取得報奨金を給付する制度です。該当する学生は、Webに掲載の申請書をダウンロードするか、就職キャリア支援課に備付の申請用紙に必要事項をご記入の上、ご提出ください。(提出先:就職キャリア支援課)

詳細はWebへGO!

<https://www.tohoku-gakuin.ac.jp/campuslife/shikaku/bonus.html>





世代を超えた地域交流の場に

東北学院大学五橋キャンパスから徒歩5分ほどの距離にある仙台市荒町市民センター。土曜日の夕方、センター2階にある会議室に、近隣に暮らす子どもたちやその家族、高齢者のみなさんが三々五々集まってきました。お目当ては、荒町地区社会福祉協議会が主催する子ども食堂、その名も「すまいる食堂」です。子ども食堂は、共働き家庭やひとり親家庭など子どもの「孤食」解消を目的に、全国各地で取り組まれています。荒町地区の「すまいる食堂」は、「共働き世帯が多く、一人で食事する子どもが多い」という指摘を受け、社会福祉協議会と児童館との共催により2016年12月にスタートしました。

スタート当初は、子どもたちの参加がほとんどでしたが、最近では、家族連れや地区に暮らす高齢者のみなさんの参加も増え、あたたかな夕食とともに、世代を超えた交流が楽しめる場となっています。

コロナ禍を機に新たな活動を求めて

「すまいる食堂」の活動にボランティアとして参加しているのが、本学のボランティアサークル「セツルメント会」の学生たちです。発足以来70年近い歴史をもつセツルメント会は、病院や育児院などを主な活動場所として、患者さんのお手伝いや子どもたちの学習支援といった活動に取り組んできました。



そんなセツルメント会の活動の前に立ちはだかったのが、2020年春以降に拡大した新型コロナウイルス感染症の流行です。活動自体が困難となったセツルメント会では、一時90名近くに達した所属学生数が2名にまで減ってしまったといいます。そんな中、新たな活動の舞台となったのが「すまいる食堂」です。活動をサポートしてくれるボランティアを求めている主催者と、活動の場を求める学生たちの思いがつながり、2022年9月から現在に至るまで、セツルメント会の活動の大きな柱の一つとなっています。

学生たちにもたくさんの笑顔が

セツルメント会では、食堂開催日の1か月前頃から所属学生向けにグループLINEで情報を発信し、ボランティア参加者を募集しています。15名の定員は今回も瞬間に埋まり、開催日当日を迎えました。会場の設営に始まり、この日のメニューとなった豚汁、焼き鳥、ポテトサラダの調理、食堂オープン後は参加者の案内や食事の配膳にと臨機応変に動く学生たち。食堂での夕食や交流のひとつときを楽しむ子どもや高齢者のみなさん、そして運営を支えるスタッフの笑顔に囲まれながら、普段の学生生活では味わうことのできない充実感とともに、学生たちにもたくさんの笑顔がありました。

※「すまいる食堂」は奇数月の第3土曜日午後5時から、仙台市荒町市民センターで開催されています。



地域交流の場にボランティアとして参加

すまいる食堂

子どもや高齢者が世代を超えて集う「子ども食堂」の取り組みに、東北学院大学の学生10数名がボランティアとして参加、地域との交流を深めています。

参加した学生に感想を聞きました

共生社会経済学科3年 菊池 遥真さん

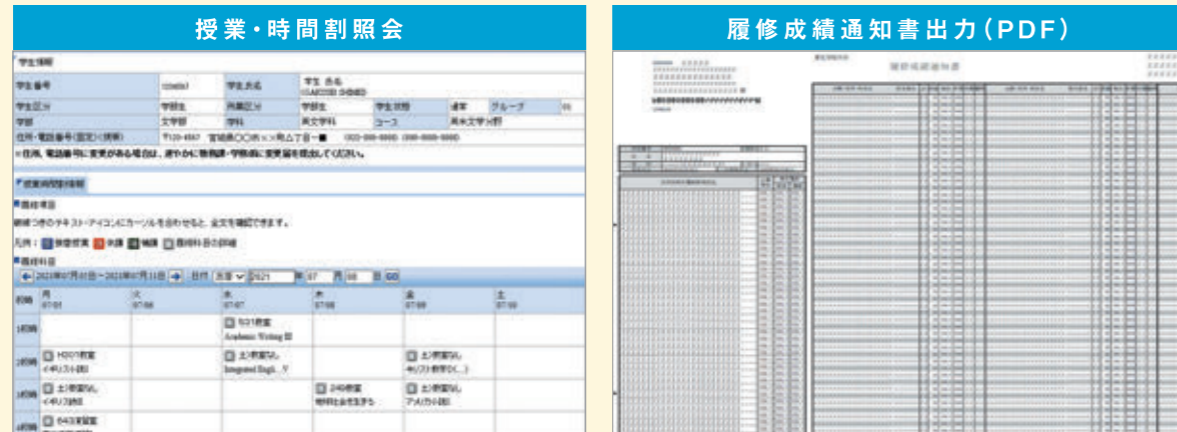
児童館での学習支援、病院でのボランティアと並び、セツルメント会の活動の柱となっているのが、「すまいる食堂」ボランティアです。私自身は、2023年7月以来、今回が2回目の参加です。このボランティア活動の魅力は、食堂にやってくる子どもやお年寄り、運営スタッフのみなさんなど、地域に暮らす幅広い年齢の方と出会い、交流できること。コミュニケーション能力の向上にもとても役立っていると感じています。みんなで和気あいあいと調理に取り組んだり、ボランティアの入り口としてもとてもいい体験となる活動をさせていただいています。



TOPICS 1

■「授業・時間割表」「履修成績通知書」のWeb閲覧サービスをご利用ください

後援会では保護者の皆さまがWebで学生の「授業・時間割表」、「履修成績通知書」を閲覧できるサービスを提供しております。 ※郵送サービスは終了いたしました。



Web閲覧サービスの詳しい利用方法は、こちらからご覧ください。
<https://www.tohoku-gakuin.ac.jp/student/data/guardians/webmanual.pdf>



TOPICS 3

24時間365日対応

■チャットボットがさらに賢くなりました



チャットボットは
下記よりご利用いただけます

東北学院大学
後援会HP

<https://www.tohoku-gakuin.ac.jp/kouenkai/>



東北学院大学HP
『在学生・保護者の方』

<https://www.tohoku-gakuin.ac.jp/student/>



※そのほか、大学HPのすべてのページからご利用いただけます。

「成績について...」「奨学金について...」などなど、
大学に関するお問い合わせは、いつでもチャットボットがお答えします！

TOPICS 2

■後援会LINE友だち募集中

後援会のイベントや大学のニュース&トピックスをお届けいたします。

本後援会では、保護者の皆さま向けに学内の様々な情報の発信手段として、通信アプリ「LINE」を導入しております。

登録方法

1. 東北学院大学後援会のLINE公式アカウントに友だち登録

右記QRコードを読み込むか、ID検索:@466zniyqをしていただき、友だち登録をしてください。(アカウント名「東北学院大学後援会」で検索しても検索結果には表示されませんのでご注意ください。)

2. 保護者登録用のアンケートに回答

友だち登録後に送信されてくるメッセージ内のURLをクリックし、アンケートに回答してください。アンケートにご回答いただくことで、学年に合わせた情報が届きます。



保護者の方限定

PRESENT 贈 プレゼント応募方法

■岸選手 & 本田選手サイン色紙プレゼント
(岸選手3枚・本田選手3枚)

東北楽天ゴールデンイーグルス岸選手と埼玉西武ライオンズ本田選手のサイン色紙をご応募いただいた方の中から抽選でそれぞれ3名様にプレゼントします。
 下記応募QRコードを読み取り、読者プレゼント応募フォームにお名前、電話番号、プレゼントを希望する選手の選択等、必須項目を入力してご応募ください。

応募はこちらから

応募締切

2024年
5月31日(金)



※当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。



6名様